

西日本一コンパクトなまち 未来への胎動

北部地域に建設が進む 新市街地ゾーン

面積7・67㎓と西日本で最もコンパクトな都市である向日市は、古くから多くの人々が生活してきた歴史あるまちである。西暦784(延暦3)年には平城京から当時の山背国乙訓郡(現在の向日市、長岡京市、大山崎町、京都市の一部)に遷都され、長岡京が造営されると、政治をつかさどる大極殿や朝堂院など、都の中心部が現在の向日市域に存在したという輝かしい歴史がある。

平安京への遷都がわずかその10年後に行われたことから、謎に包まれた幻の都ともいわれる長岡京だが、現在では平城京や平安京と同様に整然とした京域を持つ本格的な都であったことが、発掘調査などで証明されている。

また乙訓という郡の名前は、郡の行政・文

化の中心地であった向日市で産出する名産の「乙訓たけのこ」「乙訓なす」などに冠せられ、市内には美しい田園風景や竹林が非常に多い。そんな土地柄の向日市が今、都市として大きな変革期を迎えようとしている。

京都市の南西側に位置し、南北4km、東西2kmの市域を持つ向日市にはJR東海道本線、阪急京都線が並行して南北に走っており、JR2駅、阪急3駅の計5駅が市内から利用できる位置にある。そのうちの北の玄関口に当たるJR桂川駅と阪急洛西口駅の間には、かつてキリンビール京都工場があった。キリンビール京都工場は平成11年に移転となり、跡地約24・6haが残された。以来10有余年、主な開発計画が近年ようやく進み、来年度中に次々と完成する予定なのだ。

「キリンビールの跡地は向日市の北部地域に当たりますが、24・6haのうち14・1haは京都市域、10・5haが向日市域です。本市ではここを新市街地ゾーンと位置付け、京都府、

京都市とも連携しながら開発を進め、本市としては広域的な商業・業務や住居、文教などの複合的な都市機能を有する市街地を形成するべく、模索を繰り返しながらその実現に向けて取り組んできました」

そう語るのは久嶋務・向日市長である。だが当初、跡地を開発しようとしていたデベロッパーは、巨大マンションを3棟、跡地にそのまま建てようとしていたのだという。「これだけのまとまった再開発地に、有機

的な都市計画から隔絶された形で巨大なマンションだけを建てられたのでは、市の活性化に役立たないどころか、むしろ弊害になる恐れがあります。デベロッパーには計画の変更を申し入れました。同時に、キリンビール跡地に隣接して向日市側に阪急電鉄の線路まで広がっていた水田地帯の地権者(53人)と話し合い、大規模な土地区画整理事業を行うことにしたのです(久嶋市長)

かくしてキリンビール跡地(24・6ha)に水田地帯(8・4ha)を合わせ、計33ha(向日市域

は18・9ha)にも及ぶ北部市街地ゾーンの開発が、キリンビール跡地では平成18年度から、水田地帯(土地区画整理事業)では平成21年度から急ピッチで進み始めた。

その間、平成22年5月にキリンビール跡地の都市計画による用途地域を、工業地域から商業地域や近隣商業地域に変更。

「併せてにぎわいやうるおいのあるまちづくりへの誘導を図るため、建築用途の制限を追加した地区計画の変更を行い、事業はようやく軌道に乗ったのです(久嶋市長)

新市街地と中心市街地との融合を目指して

既にキリンビール跡地に、オムロンヘルス

ケア本社ビルが完成している(平成23年10月)。さらに洛南高校附属小学校(平成26年4月開校予定)、京都銀行研修センター(同3月末完成予定)、イオンモール(同10月開業予定)など、キリンビール跡地の開発事業は来年度中に次々完成する



予定だ。

前出の久嶋市長の言葉にもあったように、周辺地区都市からの大規模商業施設への集客、進出企業への通勤客や住宅、新設小学校などが複合的かつ有機的に集まる地区になることが、まさに目に見えるように想像される。

一方の土地区画整理事業は、平成26年度中完成を目指して昨年度には使用収益を開始し、住宅地開発や商業地開発が進められている。

既に、都市計画道路久世北茶屋線(中山稲荷線の4車線化、阪急洛西口駅(平成15年度)とJR桂川駅(平成20年度)の開業は完了した)うえ、阪急京都線連続立体交差化事業の実施(平成19年2月)。28年3月完成予定だが、28年度中にずれ込む見込み)など、周辺の整備も着々と進んでいる。

この大規模な再開発、土地



新市街地ゾーンは2つの鉄道駅に至近。工事が進む阪急の連続立体交差化事業



幽玄な雰囲気「竹の径」

くしまつとむ
久嶋務
向日市長





幻想的な竹の径のイベント「かぐやの夕べ」



激辛商店街のキャラクター「からっキー」と激辛商品(上)

本の竹行灯が醸し出す幽玄的な夜景が多く、観光客を引き付けている。
コンパクトシティー向日市のいいところは、これらの観光資源を徒歩でも回れるというところだろう。取材の際にもそれは大いに実感されたところだ。

さらに最近の向日市は、商店街が面白いと評判だ。
向日市の商店街もまた、全国の中心市街地のそれと同様、非常に苦戦しているという。

正直なところ、現在もそれは大きく改善されたとは言いがたいが、商店街の有志が知恵と力を出し合っている。次々と斬新な試みを行っているのだ。その熱気は商店街を歩いているとよく分かる。

「激辛商店街」の企画は平成21年7月に始まりました。市内各所の商店街有志が参加し、飲食店は激辛

メニューを、食料品店は激辛食品を開発してお客さまに提供するのが、現在約40店舗が参加していますが、マスクミにもたびたび取り上げられ、商店街にも久しぶりに活気があふれています(久嶋市長)

また、話題の広がりとともに、向日市も補助金を計上、観光振興にも効果が上がっている。昨年「激辛グルメ日本一」を決める《KARAIグランプリ》を向日町競輪場で開催し、今年も期間中に5万人もの来場者が訪れたという。

また昨年10月には企画第2弾として「トリックアート商店街」が登場。現在のところ

区画整理事業が向日市にもたらす最大の波及効果は、やはり何と云っても「にぎわい」だろう。土地区画整理事業で開発する住宅地は「恐らく約1000人規模になる予定」と久嶋市長。全国的に地方都市の人口減少化が当たり前の時代にあって、市域が西日本一小さく、人口5万人台の向日市の人口が一気に約1000人単位で増えるというような機会はない、今後もまず増えないだろう。

「長岡京の中心・長岡宮がかつてこの地にあった」ということは、向日市がわずか10年でも、日本のキャピタルセンターだったということを示すわけで、これは全国に誇るべき宝だと思っています(久嶋市長)

また竹の径(総延長1800m)は竹林の美しさもさることながら、さまざまな編み方をされた竹垣がとて美しくみやびだ。日本ウオーキング協会「美しい日本の歩きたくなる道500選」にも選ばれ、毎年10月に開催されるイベント「かぐやの夕べ」では、約4000



全国的に高品質が知られる乙訓のたけのこ

ち、一部でも、そのままずっと市域を南下し、回遊していただき、地域全体を活性化させる推進力になっていただければ、いうことはありません」
取材の際、JR桂川駅からキリンビール跡地、阪急洛西口駅に隣接する土地区画整理事業の当該地などを歩いた後、向日市が発行するウォーキングマップを活用して向日市街をずつと南下していったが、阪急洛西口駅からはみずみずしい田園地帯を経てわずか20分ほどで、名産・乙訓たけのこを産出する竹林地帯に達した。



長岡京の記憶を伝える「大極殿公園」



元気な高齢者が介護予防にいきむ「地域健康塾」

が参加。オムロンヘルスケアの本社でウォーキング講座を受けた後、そこからスタートして向日市内を実際にウォーキングしたという。

産学公連携の三者は今年5月、新たに「向日市市民健康づくり会議」を発足させ、市民健康講座や健康ウォークの開催など、市民の健康づくりのための仕組みづくりにも取り組んでいる。

平成24年10月に、向日市を活動拠点（ホームタウン）にしているプロサッカーチーム「京都サンガF.C.」、プロバスケットボールチーム「京都ハンナリーズ」と向日市の三者で結んだ「スポーツを通じたまちづくりに関するフレンドシップ協定」は、さしずめ若者向けの



提携するプロバスケットチーム「京都ハンナリーズ」の市民応援デー

健康づくり事業の一環といえるだろう。

両チームは向日市が主催する健康づくり教室や小中学生を対象とするスポーツ教室への協力、イベント時の市民との交流、市民応援デーを設けて市民の招待などを図り、向日市は両チームの広報への協力、市民との交流の場の提供などを実施する。

「このように各世代を通じて、健康の大切さ、健康づくりの意義を体感していただき、ゆくゆくは医療費の削減にもつなげていければと考えております」（久嶋市長）

向日市は京都から電車で約10分、大阪市からも約35分という非常に交通至便な位置にあり、両市のベッドタウンとして発展してきた。



産学公連携の企画から生まれた「市民健康ウォーク」

これまで見てきたように、向日市は歴史文化的に非常に独自な歩みを刻んできたことが分かる。北部地域の新市街地が完成すれば、そこへさらに新しい顔が現出してくるだろう。その波及効果はきつと、ご紹介した激辛商店街やトリックアート商店街なども連動した、新たなにぎわいを生み出す要因にもなるだろう。また、新市街地に本社を置くオムロンヘルスケアは既に市民の健康づくりに深く関与し始めている。

いにしへの都長岡京・向日市に新市街地が溶け込み、全身に新たな輝きが生まれるときが今から楽しみだ。

（取材・文 遠藤 隆）



5万人もの集客があった「第2回KARA-1グランプリ」

作品はまだ3点だが、ゆくゆくは市内の商店街各所にトリックアート作品を配置し、激辛商店街と併せて、市内を回遊するきっかけづくりを意図している。

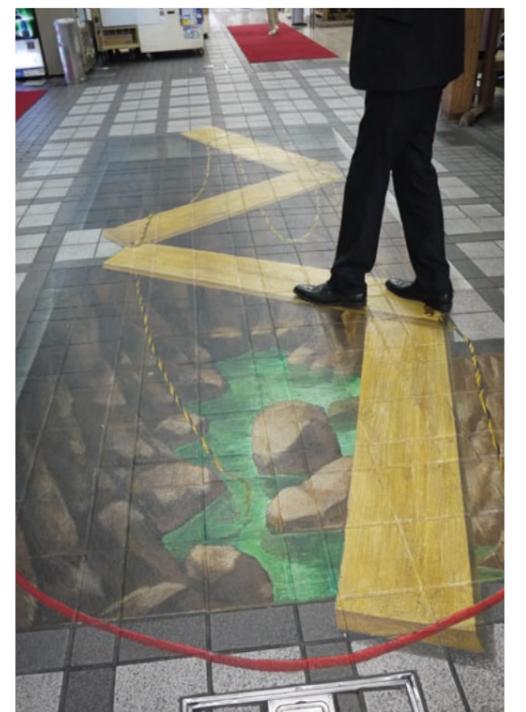
実際に商店街を回って感じたのは、参加店舗それぞれの本気度だった。商店街全体で意思統一して一つの企画を実践するケースと違い、激辛商店街もトリックアート商店街も、いくつかの商店街にまたがって「有志が参加する」という形式のため、空間的な連続性が弱い。しかし、それを補って余りあるのが、

参加店舗それぞれの本気度なのだ。

写真にもあるように各店舗が工夫して激辛を合言葉にさまざまな営業展開を行っているし、トリックアートも非常に本格的だ。例えばアポイントなしで店を訪れ、「激辛」ないし「トリックアート」の取材をさせていたきたい旨を伝えようと、どの店でも即座に（お客さまがいても）応じてくれるばかりか、取材しやすいようさまざまに便宜を図ってくれる。これは参加加盟店舗の間の意思統一が常に高く保たれている証拠だ。向日市の商店街は実際、小粒でもピリリと覇気のある人材が点在しているのだろう。

多角的な運動・連携で行う市民の健康づくり

商店街と同様、向日市では高齢者も元気だ。実は取材の過程で、各地区公民館などで開催されている元気な高齢者が介護予防にいきむ「地域健康塾」（週一回開催）をたまたまのぞかせていただいたのだが、指導者の皆さんのお勧めもあり、ストレッチ体操教室に参加させていただくことになった。当方も年齢の割には柔軟性を保っているつもりだったが、参



「トリックアート商店街」の本格的なトリックアート

加者（全員65歳以上）の皆さんの体の柔らかいことにはとても驚いた。

「地域健康塾は平成17年度から実施しているのですが、好評のため実施場所がどんどん増えています。また市民の健康づくりに関しては、高齢者向けばかりでなく、平成24年10月には北部地域の新市街地に本社を置くオムロンヘルスケア、それから京都府立医科大学との間で産学公連携による『市民の健康づくりに関する協定』を結びました」（久嶋市長）

京都府立医科大学は市民の健康づくり施策に対する指導・助言を行うとともに、健康づくりに関する日ごろの研究成果をフィードバックする役割を果たす。またオムロンヘルスケアは、健康イベントの開催や健康アドバイスなどを実施する。

平成24年11月に開催された「健康ウォーク」はその取り組みの一環で、約300名の市民